

相続・事業承継で成果上げた11名を表彰

相続・事業承継コンサルティングアワード2018開く



挨拶する石野毅代表理事

▽大賞(1名)井出裕之氏
▽最優秀コンサルタント



大賞に輝いた井出氏

井出氏が大賞を受賞した理由は、「井出氏は過労から体調を壊し、3年間、自分の満足のいく営業活動ができず非常に苦勞された。それまでは個人の案件を担当し実績を出していたが、自分のマ



受賞者記念写真

一般社団法人相続・事業承継コンサルティング協会が主催する、相続・事業承継コンサルティングアワード2018が8月31日、グランフロント大阪で開催され、協会メンバー約80人が参加した。このアワードでは、同協会が主催する研究会の受講生のうち、保険業績で顕著な業績をあげ、協会活動に貢献したメンバー11名が表彰された。また、表彰式の後には株式会社日本M&Aセンター代表取締役会長分林保弘氏による基調講演、記念撮影、懇親会が行われた。

強固な組織にし

ブランディングを図る

今後は社会貢献の領域へ

今回4回目となるアワードは、冒頭、代表理事石野毅氏が挨拶。協会の今後の展開として「2018年は事業承継元年の年として受講生たちが講座終了早々、キヤッシュポイントを押さえた結果を出して大きな盛り上がりになっている。これからは強固な組織にしてブランディングを図りたい。今後のビジョンとしては、人生の集大成である相続・事業承継に問題を抱えている方に対して最適なコンサルティングで、後世に大切な資産や事業を引き継いでいく水先案内人、戦略ナビゲーターとして社会貢献をしていく領域に入りたい」と述べた。

続いて各受賞について紹介、表彰となった。受賞者は次のとおり。

▽大賞(1名)井出裕之氏
▽最優秀コンサルタント

賞(1名)酒井太輔氏
▽優秀コンサルタント賞
事業承継部門(2名) 松本弘晃氏、工藤三徳氏
▽優秀コンサルタント賞
相続部門(3名) 八田淳氏、深澤隆氏、黒住恵里氏
▽優秀講師賞(2名) 進藤誠氏、升田良太郎氏
▽審査員特別賞(2名) 石井良幸氏、澁谷潔氏

井出氏は大賞を受賞した理由は、「井出氏は過労から体調を壊し、3年間、自分の満足のいく営業活動ができず非常に苦勞された。それまでは個人の案件を担当し実績を出していたが、自分のマ

クロスアップ

大賞受賞の井出裕之氏

仕事量半分、生産性は1.5倍に

にふち当たりの、講座を受ける。非常に比率が高い。けることになった。コミユニティーの中で考え方が変わり、刺激も受けた。今はどんなところからでも話の展開は可能だと思ふし、仕事は時間だけでなくできると思つてい

時、研究会や勉強会に顔を出し、全国の皆さんの話を聞くだけでもモチベーションが上がる」と語った。

その後、基調講演として株式会社日本M&Aセンター代表取締役会長分林保弘氏が「事業承継としてのM&A企業の存在と発展」と題した講演を行った。

講演では、まず事業承継の歴史に触れた。

その後、事業承継は、財産権の「承継」「経営権の承継」の2つに分かれると説明は進んだ。

「1つ目は財産権の承継、特に相続と相続税問題は税制改正され控除額が少なくなり対象者が倍以上に増えた。全国で平均8%になっている。2つ目は経営権の承継問題。後継者問題でお困りの方が全国平均65%お

が継がないと後継者不足。仕事は海外に行き、空洞化している。卸小売業はインターネットの発展や大手との統合も進んでいる。病院・調剤は薬価が減額しているし、2代目以降はドクターにならない創業者のように病院経営ができるかどうか。病院経営は大変だ。各業界がそれぞれ先行きの不安を抱えている。

◆親族外承継の急増
経営者の平均年齢は20年間47歳から66歳へ上昇。平均引退年齢は70歳前後になっている。また親族外承継は在任期間35年以上40年未満85%に達している。最近約65%の親族外承継割合は3分の2になっている。親族外承継は急増している。

◆大手企業のグループ会社として存続と発展を
中小企業は後継者がいないという他、社員が来ない、良い人材が来ない。採用したくても採用できないという人材難。これが今後、中小企業の一つ大きな問題になるのではないかと。将来、労働倒産する企業も出てくるかもしれない。

◆現在は売り手市場
現在、どれだけのマーケットがあるかというところ。全国の全法人数は約250万社。その中で中堅中小企業は約60万社。その中の30%が黒字企業。黒字企業の65%が後継者不足だとして約12万社がマーケットだと思われる。

◆当社がM&Aの仲介を実施している譲渡企業は年間323社(2017年度実績)。また膨大なマーケットが潜在している。

◆継ぐに値するものが継ぐ
世阿弥が事業承継について「家、家にあらず。継ぐをもちと家」と言っている。家というものを継いでいるだけで、家を継いだとはいえない。その芸をきちんと継承して、家がずっといえるのだ。と、また世阿弥は「たとえ自分の子であっても、その子に才能がなければ、芸の秘伝を教えるてはならない」とも言っている。これは600年以上前の言葉だが、現代社会にも通じる。伝統芸でも企業でも同じだ。今、激しい競争社会の中で、継ぐに値する者が継ぐべきなのだろう。息子だからという理由だけで、会社を継ぐべきではない。会社はパブリックなものだから、できる人が継ぐべきだと思つている」と分林氏は締めくくった。

日本M&Aセンター分林会長が基調講演 65%の中小企業が後継者問題に悩む

これからの解決策として、上場企業など大手企業との組む方法が挙げられる。大手企業がバックにあれば良い人材が獲得できる。国内マーケットだけでなく海外へ拡大できる。大手企業は大量仕入れが可能で仕入れ価格が安い。社債等が中心で信用力があるので金利も安い。

◆継ぐに値するものが継ぐ
世阿弥が事業承継について「家、家にあらず。継ぐをもちと家」と言っている。家というものを継いでいるだけで、家を継いだとはいえない。その芸をきちんと継承して、家がずっといえるのだ。と、また世阿弥は「たとえ自分の子であっても、その子に才能がなければ、芸の秘伝を教えるてはならない」とも言っている。これは600年以上前の言葉だが、現代社会にも通じる。伝統芸でも企業でも同じだ。今、激しい競争社会の中で、継ぐに値する者が継ぐべきなのだろう。息子だからという理由だけで、会社を継ぐべきではない。会社はパブリックなものだから、できる人が継ぐべきだと思つている」と分林氏は締めくくった。